

# 私と日本の"縁"となった4年間

——日本語教室で学んで

霍 艷麗(カク エンレイ)

日本へ留学に来る前には、私は外国に留学すること等考えもしませんでした。それまでは日本に対する知識はほとんどなく、日本については和服の美しさと富士山しか知らなかったのです。

修士在学中の時、中国の東北大学（瀋陽）を訪れた千葉工業大学の教授に接する機会に恵まれ、日本へ来るチャンスが与えられました。これが日本との"縁"の始まりでした。

2009年10月29日、私は日本へ初めてきました。その時は不安で一杯で、言葉は「有難う」、「すみません」の二つだけしか知りませんでした。研究室の先輩である王さんにお世話になり、習志野市国際交流協会の日本語教室を紹介されました。

2010年の正月に会ってから、塚本先生に4年間教えて頂いたことは私にとって非常に幸運でした。始めは話を聞くことも全くできなかつた私ですが、先生のお陰で4年の間に日本語を大分理解出来るようになり、昨年は日本語試験N1に合格しました。その時、先生はご自分のことのように喜ばれました。



日本語教室の七夕祭りでスピーチ

塚本先生は私のことをいつも娘のように気にかけ、言葉、マナー等も細かく指導をしてくださいました。茶道、書道、折紙、料理等の活動にも一緒に参加して、隣で教えてくださいました。七夕祭りでは、先生が私の為にわざわざ浴衣を持って来て、着せてくださいました。私は自分の姿を見て、我ながら日本の伝統の和服が似合っているなあと思いました。

日本語教室で一緒に勉強した先生方にもお礼を申し上げます。

私のように日本の事をほとんど知らない外国人に、日本語をはじめ、日本の風習を教えていただき、またいつも笑顔で励ましていただき、本当に有難うございました。皆様お元気で、世界から来た人々にご指導をお願い致します。

私は今年3月に卒業した後は中国に戻ります。これからはお会いすることは難しくなりそうですが、日本で4年間勉強したことは、私と日本の"縁"であると思って大切にしています。



料理教室に参加。右列、前から3人目が筆者